

海賊対処行動派遣部隊が無事任務を終え帰港

～ 第45次派遣海賊対処行動水上部隊帰国式典の様相 ～

第45次派遣海賊対処行動水上部隊がソマリア沖・アデン湾に向けて、2023年6月に日本を発つて以来、約6か月ぶりとなる12月16日に横須賀（神奈川県）に帰港した。

同隊は、田中宏明艦長が指揮を執る護衛艦「いかづち」であり、宮本幹央隊長ら8名の海上保安官を含む、約200名の乗員が事故無く任務を遂行し、無事帰国した。

派遣期間中は、ソマリア沖・アデン湾において1回の直接護衛を実施したほか、海域を分担して警戒するゾーンディフェンスで多くの商船の安全を確認した。

これに加え、中東地域における関係船舶の安全確保に必要な情報収集活動も行ってきた。

式典では、田中艦長が「任務を達成して無事に帰国しました。期間中のご支援ありがとうございました。引き続き国民の負託にこたえたい」と帰国報告の後、齋藤聡自衛艦隊司令官が訓示において「任務を見事に遂行した乗組員が一致団結し、国民の生活および豊かな海を護るという強い意志を感じた。」と称えた。

海上保安庁からは彼末浩明警備救難部長が、「日本のみならず世界の海運の安全を確保したことは誇りである。最近も船舶襲撃事案が発生しており、関係海域の任務の負担は計り知れないものがあったと思う」と隊員を慰労する言葉を述べた。

当協会からは土屋恵嗣副会長、川崎汽船(株) 綾清隆専務執行役員、日本郵船(株) 春名克彦執行役員、(株)商船三井 佐々木将雄海上安全部長を含む7名が、また、国際船員労務協会からは今田理事、池田事務局長、全日本海員組合から大山外航部部長ほか参加し、土屋副会長は「日本商船隊を護っていただき、ありがとうございました。」と半年以上におよぶ任務に謝意を伝えた。

台風に見舞われた6月の出国と対照的に、冬とは思えない穏やかな天候ではあったが、前日から続く風雨に備え、帰国行事は屋内で実施された。

(海務部 事務局)

帰国行事



帰国式典会場



訓示する齋藤自衛艦隊司令官



挨拶する彼末警備救難部長



挨拶をした土屋副会長



田中艦長と土屋副会長、国船協今田理事



海上保安庁宮本隊長を囲んで



日本海運界からのメッセージ



約半年の任務を終え無事帰国した「いかづち」

